

# 教育関係団体との意見交換の概要 (主な意見の抜粋)

※掲載されている内容は各団体の総意ではなく、参加者個人の意見です。

実施団体

8/19(月)	信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会	9/6(金)	長野県教職員組合連絡協議会
8/22(木)	公益社団法人信濃教育会	9/6(金)	長野県町村会
8/22(木)	長野県市長会	9/10(火)	長野県特別支援学校校長会
8/23(金)	長野県小学校長会・長野県中学校長会	9/18(水)	一般社団法人長野県私立幼稚園・認定こども園協会
8/24(土)	長野県野外保育連盟	9/25(水)	長野県PTA連合会
8/28(水)	長野県市町村教育委員会連絡協議会	10/3(木)	長野県私立中学高等学校協会
9/2(月), 9/3(火), 10/10(木)	長野県高等学校長会	10/10(木)	一般社団法人長野県保育連盟



実施団体	信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会	場所	オンライン
実施日程	8月19日（月）20:00～21:00	参加者	協議会員、円卓会議委員（約20名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 子どもや当事者の声により耳を傾ける

- ・「こどもまんなか」の捉え方・イメージがそれぞれある。大人がそれをつくるのに限界がある。子どもと一緒に対話を重ね、共につくることが重要。
- ・自分からは言えない子どもの声をしっかり聞き取る、子どもアドボカシーのような取り組みを。
- ・学校外で過ごし、学ぶ子どもたちや保護者の声や思いを集めて、必要な団体や会議に届ける。
- ・「子どもたち」をメインにした会議や対話の場の設定。

### 学校外での学びと支援を学校と共に進めていく

- ・学校「等」が大事。学校ができること、民間ができること。線引きが難しい。学校ができることできないことを、しっかりと認識し、他の部分はいろんな人と協働していくことが望ましい。
- ・今のフリースクールは、学校を否定しているわけではない。子どもの在り方を尊重している。
- ・学校に負担を押し付けないように活動しているということを、本音として受け取って欲しい。対立軸ではないことを分かって欲しい。決してマイナスではない。

### 「すべての子ども」を包み込める学びの機会・環境の検討・推進

- ・学校が掬いきれない子どもたちも対象。
- ・私たちが相手にしている子ども＝マイノリティ。「全ての子ども」をしっかりすくえるようになっているかを大切にすれば良い。
- ・フリースクールはケア的な子ども達も多い。生きているだけで良い子たちに、得意を伸ばすという発想は本当に正しいのか。
- ・不登校や学校以外の学びに対する、非当事者の方々の理解を拓げるための、団体間の共同研修や対話の場の設定。

### 選択肢を広げることが出来る取組の推進（どこに通うかや進路）

- ・今やっている活動のバウチャーによる無償化。
- ・経済格差による選択肢の狭まりをなくしたい。
- ・ドラスティックに入試内容をもっと大胆に変えていく。

### 子どもの姿や多様な学びを関係者の間で共有する

- ・子どもの「できた・やれた」を学校や行政と共有したい。認めてもらえる瞬間を増やし、拡げたい。
- ・直接見てもらう、学校にも見に行けるように相互交流の機会がほしい。
- ・保護者・当事者、多様な学びの場について発信ができる場を設けていく。

### フリースクール間の連携協働の推進

- ・各団体同士の交流や連携、ノウハウの共有、子どもたち同士の交流など。
- ・他県の協議会、支援団体、支援者との交流、情報交換など。
- ・信州型FS認証制度の対象とならない（もしくは、あえて申請しない）団体との連携、つなぎ役。

実施団体	公益社団法人信濃教育会
実施日程	8月22日（木）11:30～12:10

場所	オンライン
参加者	信濃教育会常任委員、円卓会議委員、教育長（約20名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

教員が新しい当たり前のイメージを持てるようにする

- ・先生方とどうやって当たり前を変えていくか。一律の教え方が不登校にもつながることもある。
- ・先生方で「新しい当たり前」のイメージが沸いている方もいるが、そうではない方もいる。

デジタル技術を活用し、情報発信・共有をやすくする

- ・教育DXの推進により、情報のデジタル共有を進める必要がある。
- ・これまで紙で実践事例集を配っていたが、今年から利便性を考慮しデジタル媒体で対応。
- ・メッセージで共感したのは、「モデルとなる学びを広く共有していきましょう」や「一つの学校では無理があるから、みんなで共有しよう」という部分。カギになるのがデジタルで、みんなで情報を共有しながら進められたらいい。
- ・例えば信濃教育会の助成の状況をホームページから見られるようにすると良いのではないかと。

これまでの取組を活かしながら新しい当たり前をつくる

- ・過去を否定するものではない、ということ先生方に理解していただきながら進めることが重要。
- ・一部の先生から、「探究的な学びが大事だということは理解できる。ただ、あまりにも自分たちが積み上げてきた授業づくりと大きく違い、何をよのかがわからない」「これまで目指してきたものと違う方向を向いているのではないかと、不安だ」という声を聞いた。先生方のこれまでの知見や経験の上に積み上げることが大事。

教員の自己実現を後押しする

- ・最近教育現場がブラックだと言われることが多く、教員たちに元気がないが、学校に居る中で自分自身も成長できる。それが教員だとどこかで示せるようにしたい。
- ・「こうしたい」と言える、そういう子どもを育てたい。その時、教員自身が自分の「こうしたい」を実感したり、体感したりしていることが重要。

フィードバックの機能を持つ

- ・プロジェクト型学習を推進しているが、その意義を感じられていない先生もいる。信濃教育会の事業等でそれを発表して認められることで、意欲も出ている。このような、先生自身が成長していることを実感できる取り組みを今後も進めたい。
- ・教員がやってみたこと、うまくいった・うまくいかなかったことを含め、楽しいな、またやりたいなとなる、職能集団としての取組を信濃教育会でさらに充実させていきたい。

バランスを意識しながら取組を進める

- ・教員が積極的に「こうだよ」と関わるべきこともあれば、子どもに任せて見守る場面も必要。教育の議論はどちらかに偏りやすいが、それぞれをどう使い分けるかが重要。

実施団体	長野県市長会	場所	須坂市文化会館メセナホール
実施日程	8月22日（木）15:20～15:30	参加者	市長会員、円卓会議委員（約20名）

### ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

#### メッセージを受けた 取組の具体的な推進

- ・メッセージを知事と教育長が受け取り、具体的にどのように進めるかが重要。

#### 地域を巻き込み、地域で 学びをつくる

- ・円卓会議は教育者が中心となって議論されており、学びの場の想定としては学校や保育等に軸足が置かれている。しかし、地域の文化や歴史などを含め地域全体をあわせて捉えていく視点が重要。県下では、コミュニティスクールの活動も進んでいる中、地域文化や歴史を全体で捉える発想で進めていくことにより、子ども達の地域への愛着もわく。
- ・東京一極集中を批判するだけではなく、地域への愛着を持たせ残していく。地域で育て、地域が子ども達の活躍する素地になっていくことが、一つの効果として期待されるのではないかと。

#### 生涯学習の視点を持つ

- ・メッセージは「子どもまんなか」であるが、地域での生涯学習の視点も重要。
- ・生涯学習について学ぶ、地域での素地を身につけていくということもぜひ含めていただきたい。
- ・生涯学習とは大人だけを対象としたものではなく、子ども時代の教育の中や学習、学びの中に、生涯を通じて学び続ける力を高めていくという発想も盛り込んでいただきたい。

実施団体	長野県小学校長会・長野県中学校長会	場所	長野上水内教育会館
実施日程	8月23日（金）11:00～12:00	参加者	各郡市校長会長、円卓会議委員（約40名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 取組のイメージを具体化し、各現場で推進しやすくする

- ・考え方はすべて賛成。でも、具体的に「何を、どうしていいか」見えない、イメージがわからない。
- ・理念には賛成。しかし、例えば「こどもまんなか」についても「今までだってやってきた」という現場の声もあるが、それでは変わらない。不満に思っている現場の先生方に具体例を提示できれば取り組みが進むのではないか。

### 現場の支援策と共に進める

- ・教職員の人的ゆとりと、専門性の向上が大切ではないか。
- ・やらなければいけないことで、一杯一杯の現状の中で、どのように進めていったらよいか。
- ・長野県として「教育にお金をかける」「未来に投資する」という県民の総意が必要。  
※全国最低のへき地手当で中山間地の教育振興を図るといっても笑われてしまう。

### 「信州教育」を見つめなおし、魅力をさらに引き出す

- ・これまで信州教育が大切にしてきたことの中に、新しい当たり前を創り出すヒントは存在しているのではないか。
- ・長野県の教育は、これまでもとても魅力的な取り組みをしてきた。  
引き続き、「これは大切にしたい」というものを大切に進めていきたい。

### 広報と啓発活動を推進し、メッセージへの共感を広げる

- ・現代の教育課題に沿ったメッセージであり、現場の者としてはありがたく感じる。県民や教職員に広く伝えていただきたい。
- ・今回のメッセージは、教育の本質となる部分だと思う。各学校の先生方にこのメッセージをどう伝えていくかは大きな宿題とも感じている。まず機運を高めることから始めていきたい。

### 国・自治体の制度改革も視野に入れる

- ・中学は何よりも入試制度改革が必要。（好き、楽しい、追求、学びが生きる入試）
- ・人員の増加（予算の増額）、学習指導要領における学習内容の減。
- ・学級児童生徒数が多く、個別対応が難しい。基礎定数を変えることが必要。

### 各学校・各地域の実情に合わせて、皆で取組を進める

- ・「〇〇改革」は諸刃の剣になりがち。それぞれの地域、学校等の実情に応じた緩やかな改革を認め、包み込んでいく寛容さを大切にしていきたい。
- ・学校現場で新たな取り組みを進める時、学校をとりまく周辺環境（保護者、地域）の理解が重要。  
働きかけに際しては、学校だけは限界がある。県、行政等からの一枚岩の働きかけがなくては変わっていかない。

実施団体	長野県野外保育連盟	場所	山ノ内町よませ活性化センター
実施日程	8月24日（土）10:00～11:00	参加者	連盟役員、円卓会議委員（約10名）

### ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

#### もっと子どもの声を聴く

- ・小1の子どもでも今の話は理解できると思う。子どもは議論に加われないという固定観念は不必要。
- ・子どもが感じていることが大人に伝わっていると実感できることが必要。
- ・せっかく円卓会議なのに大人主導になっている。子どもの存在が必要。会議の形自体が「これまでの当たり前」。
- ・子どもに直接聞く、信州子ども会議のようなものがあったもいい。この会議も大人の見方が強い。

#### 相互コミュニケーションを重視した幼保小連携の推進

- ・学校だけで困らないで、子ども達と濃密な関係性を持っていた幼児教育の人達を巻き込んでほしい。
- ・校長、教頭が、幼稚園へ研修に来るなど、様々なことを日常的に一緒に考えられるといい。
- ・実践者として幼保小連携は大切な（子どもの学びの育ちの保障として）こと。
- ・子どもが過ごす環境を中心にみんなが関係性を築くことが重要。幼保小連携では、会議自体はあるが実際の意味疎通ができていない。もっと日頃から学校の先生同士の関係づくり、コミュニケーションが必要。

#### 取組の推進に向けた関係者間の相互理解・連携の推進

- ・学校現場（主に公立）との価値観の乖離を感じることも多々ある。
- ・次の段階の具体的な道筋、「新しい当たり前」の具体化に期待したい。保護者や児童、生徒、学生とともに作っていきけるといい。
- ・昨今は教育に期待を持っていないとはっきりおっしゃる保護者も増えてきて、何も考えずルールに乗っていく家庭と、教育をなんとかしたい、変えたいと考えている家庭との極化を感じる。

#### 特色ある取組のさらなる推進

- ・長野県下で保育士を目指したい学生の多くが自然保育に興味があると答える。信州らしさを感じられる場に関わりたい想いがあり、やまほいくを進める長野県らしい学生の学びの場がさらに必要。

実施団体	長野県市町村教育委員会連絡協議会	場所	長野上水内教育会館
実施日程	8月28日（水）11:00～12:00	参加者	連絡協議会役員、円卓会議委員、知事（約15名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 取組を推進するためのより具体的なイメージの共有

- ・重点項目で賛成・反対、ということではなく、具体的なイメージができないということが率直な感想。これで何を  
するの？どうやって解決するの？が見えないと進められない。
- ・子どもたちがやりたいことをとことん追求するというときに、何をどの範囲で？ということや、学級集団はどうなる  
の？学力の担保はどう補完するのか？などがイメージできないと進めるのが難しい。どうやるの？まで含めて  
メッセージを出さないと難しいのではないかな？

### 教員配置等の教育制度の構造に踏み込んだ改革

- ・学校の授業は6時間毎日ある。子どもたちは4時帰り。教員が使える時間は45分のみ。係会、職員会、学年会、と  
重なるとクラスで独自で取組を考える時間はほぼない。それを構造的にメスを入れていかないと難しいのではないかな？
- ・いずれにせよ、1学級35名では難しいのではないかな？それをしっかりやるなら人数が多すぎるのではないかな？先生が  
追加で配置してもらえたらよい。
- ・構造的な問題を解決しないうちにこれらのことを行うのは現場では難しいのではないかな？6時間授業を4時間にする  
など、いろんな制度の改革は特区申請などでやれそうなことはあるのではないかな？
- ・実現するには構造的な改革に踏み込まないといけない。1学級の子どもの数、それに合わせる先生の配置、学習指導  
要領とかそういうことに合わせないと、市教委としてどうやって行けばよいのか？ということが難しくなる。
- ・確かにこれまで子どもを中心に教育を行ってきたつもり。ただ、多様なお子さんが増えてきたり、社会の変化が早く  
子どもたちがみんなタブレットに向かっていたり、ひと昔前の教育では考えられない現状にある。ただ、これを  
「新しくする」ということが私には見えない。同一学年ではなく、それぞれで、ということならそもそも教育の  
枠組みを考えないといけない。
- ・個人的には学校制度そのものを大幅に変えないと成り立たないという意識。

### 実際に推進するうえでの現場の課題の解消

- ・子ども主体の学びが学習指導要領に沿った学びとなっているどうか評価したとき、そうでない場合は、どこかの時間  
を確保し補充をしなければならない。また、子ども主体の学びのカリキュラムは教師が作っていくことになるが、  
多くの教師はそうした経験をしてきておらず、ハードルは高い。
- ・子どもたちが学校でやりたい、チャレンジしたいこと中心にしたカリキュラムをつくるのは担任。  
学級ごとに異なることを行うため、その労力はかなり大きい。

実施団体	長野県高等学校長会	場所	各地区内高等学校
実施日程	9月2日（月）、9月3日（火）、10月10日（木）	参加者	校長会（約80名）、校長会会長会、円卓会議委員（5名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 「生徒が主役の学校」を目指す

- ・学校の主役は生徒である。好きなこと、やりたいことが見つければ生徒は自ら成長していく。
- ・生徒が当事者意識をもって学校づくりに携わることを実現する。
- ・生徒同士や生徒と教師間の対話や意見のぶつけ合いこそが変革の原動力。
- ・大人目線での「こうあるべき」を手放し、生徒に委ねることも大切。
- ・自立（律）性や社会性を育みながら、高校生という『大きな子ども』の心の中に『小さな大人』が育まれるよう生徒、保護者、地域と学校が対話していくことが、今日の生徒の成長にとって大切だと感じる。
- ・探究を学びの中核に据えることで、生徒のモチベーションにスイッチが入り、マインドセットにより自己肯定感が高まるのではないか。

### 個別最適な学びと協働的な学びの充実

- ・一人一人の得意や苦手を認めつつ、個々の学びの充実を保障する。
- ・生徒同士がお互いを認め合いながら、学びやすい方法で学習を行うことを可能にする。そのためには少人数学級の実現やそれに合わせた教員の加配が必要。高校には給与費に係る「義務教育費国庫負担制度」と同様な制度がない。
- ・地域との連携等による社会参加や多様な価値観との出会いは、自らの気持ちや要望、援助希求を言葉にして伝える経験となる。

### リスペクトの心を育む

- ・自分と他者の言葉をすり合わせる中で、相手の考えを尊重し、少しずつ自己を変容、刷新させ、思考を深めていくことが大切。
- ・様々な出会いの場を通して、互いの人格を尊重し、良いところを認め合えるよう成長してほしい。
- ・生徒、教員、保護者、学校、地域等、それぞれの間の信頼関係を育てていく。
- ・学校も教育への様々な意見・価値観や社会的なニーズ・情勢を受け止めて柔軟に変化して行けるとよい。

### メッセージ・取組の推進に向けたリソース支援が重要

- ・現場は深刻な教員不足。常に教員探しをしている現状。また、予算も限られており、厳しい学校運営。
- ・40人単位の募集定員の減に合わせ、教員定数も削減されている。地域や学科の特性や実情に合わせた募集定員を実現するとともに、ICTやオンラインの活用等により、どの学校でも生徒の求める学びが提供できる環境整備が必要である。
- ・メッセージの内容が実現できると良い。そのために予算増額や人的配置の充実が不可欠と感じる。特に、各校の実情にあった持続可能な探究のシステム構築には、教員研修の充実や校内外の体制づくりが必要だが、その実現に向けた時間と資金の確保が課題。
- ・各高校の探究を支えるコンソーシアムの構築や、地域と学校を繋ぐ連携コーディネーターの配置が必要。



実施団体	長野県教職員組合連絡協議会(県教組、高教組、私教連)	場所	県庁
実施日程	9月6日(金)10:30~11:50	参加者	協議会役員、円卓会議委員、知事(約10名)

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### これまでの取組も大切に、メッセージを現場の教職員に広める

- ・現在多くの授業が「教室で、同年齢の学習集団で」行われているのは事実だが、私たち(※教員)はそれが画一的、一方的にならないよう授業づくりや教材研究を日々工夫している。同年齢の学習集団や履修主義にも意義があり、そこには 実践の蓄積や集団知が含まれている。単純に「古い」「新しい」とラベリングすることは相応しいのか。
- ・「今までの当たり前」がなぜうまく行かなくなっているかという議論なしに、「新しい当たり前」として、個別最適な学びやデジタルツールの活用に特化していくことは違うのではないか。子ども中心の学びのあり方、それを一番近くで見ている教職員の感じ方、想いを施策に活かして欲しい。
- ・一斉授業は古い手法との見方もあるが、子どもたちの発達・発展の土台となる共通教養は大切にしなければならない。ICTの活用を否定するものではないが、「教師は知の伴走者でよい」という考え方には疑問がある。

### 「余白」を含めた教職員への処遇改善、教育条件の整備・充実

- ・長野県が教育県と呼ばれた背景として、明治期以降全国に先駆けて教育条件整備をすすめた点がメッセージに書かれていることは重要。
- ・新たなことをするには教材研究や授業準備の時間保障が不可欠だ。空き時間を作るためには人が必要。先生たちにも「このままでいいのか、できるならこうしたい」という気持ちはある。教員同士が議論できる時間や場のゆとりが必要。処遇改善は給与の話だけではなく、自分たちの仕事が十全にできる、時間の余裕、時間の保障を含めて考えてほしい。
- ・例えば理科の実験、失敗の後にどうすればいいのかを考えてもう一度実験させたいが、教科書に追われて時間がない。現場は裁量をもって教育課程を主体的に編成できるはずだが、それに気づかないまま「やらなければいけない」と続けている実態もある。学校や教師に裁量があることを確認したいし、裁量を発揮するうえでは人員配置が必要。
- ・今のへき地手当では、へき地校勤務者は費用持ち出しが増えるので中堅世代が赴任を希望できず、教職員の年齢構成や非正規率に偏りが生じている。構造的な問題であることを踏まえ、近隣県以上の水準とすることが急務だ。

### 学びの評価の見直し

- ・子どもは序列化と競争で疲弊をしている。県立中学・高校には県独自の「学びの指標」が導入されているが、生徒の価値観などを評価すると生きづらさを生む。そういうものを軽減していきたい。
- ・観点別評価が高校に入ってきた。大学進学希望者を前提にしており、就職等の生徒にはなじまないと感じる。

### 公立全日制の子どもたちだけでなく、私学を含め全ての子どもたちに焦点を当てる

- ・各校の建学の精神を尊重しなければならないという前提があるが、長野県の子どもの学びに関わるという部分では私学も公立と共通している。
- ・私立は県が直接所管していないが、県や国からの助成金がなければ、私立学校の処遇改善・余裕ある教職員配置は困難。
- ・フリースクールに通う子ども、障がいを持つ子どもや外国ルーツの子ども、ケアが必要な子ども、家で学ぶ子どもなど様々な子どもたちが思い浮かぶ。学校の「新しい当たり前」を目ざすうえで、それらの多様な子どもが同じ空間で共に学び合えるものであってほしい。また多様な学びを経た子どもの進路保障も大切である。

実施団体	長野県町村会
実施日程	9月6日（金）13:35～13:50

場所	長野県自治会館
参加者	町村会役員、円卓会議委員（約10名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 地域特性を活かした学びを充実するためのリソース支援

- ・中山間地域では、人口の減少、児童・生徒数の減少を踏まえ、定期的に学校や教員の数を減らす、財源をカットするというのではなく、より重点的にリソースを導入するという覚悟がないと意味がない。
- ・小規模市町村では、すでに特色ある学びには取り組んでいるが、現場の先生方はすでに多忙な状況に疲弊しており、この状況で、さらにこのメッセージを示すと、さらに疲弊させてしまうのではないか。
- ・子どもの数が少ないという現状は、一人一人が密度の高い学びを行うには絶好のチャンスであり、文科省にそのまま従うというのではなく、各地域が主体的に取り組むことが重要。

### 市町村と県の連携強化

- ・それぞれの地域の実情に合ったカリキュラムの作成等、地域の強みを活かした特色ある学びを展開していく必要があるが、各市町村、県単独で成し得るものではなく、双方がしっかり連携して取り組めるような仕組みを作っていただきたい。
- ・例えば、地域振興局に財源や権限の一部を移管して、その地域の特色ある学びに取り組むといったように、地方行政同士が協力することが重要。

### 学校・教員と地域のつながり強化

- ・中山間地域では近隣市町村から通勤する教員も多く、地域とのつながりが薄く、学校教育と地域での社会教育は別だと認識する方も多いが、地域に密着した、地域に開かれた学校になれば、子どもの多様性も豊かになる。

### 地域活性化の視点を含めた学びの環境づくり

- ・教育を軸に子育て世帯を集めるという視点も大事だが、それだけではなく、地域の魅力や人の魅力を高めるという視点も重視しながら、目指す教育と一致させることも重要。
- ・中山間地域の自然の豊かさを活かして、地元にも愛着を持つような教育を進めているが、進学とともに遠くへ出てしまったまま戻ってこない現状もある。

実施団体	長野県特別支援学校校長会	場所	県庁
実施日程	9月10日（火）9:30～10:00	参加者	校長会員、円卓会議委員（約20名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 卒業後の自由な進路選択の保障とそれを支える社会資源の充実

- ・特別な支援が必要な子どもたちにとって重点取組項目⑥も重要。子どもたちが学校を出た後の生涯にわたる学びや余暇活動の選択肢を支えるための社会資源の充実が必要。
- ・子ども自身が将来こういうことにチャレンジしたい、やってみたいと思うことはあっても、障がいがあることで実際に社会に出るときに結びつけられず、悩んでしまう。そういう子どもがいることを発信して知っていただくこと、学校のみならず、社会が理解してくれることを望んでいる。
- ・メッセージの内容は今後が楽しみになってくるという印象。やらされ感なく、全員で作っていくものだという趣旨が素敵。これを教育現場の人たちが知っているというだけでなく、県民全員の意識に落とし込まれていくといい。

### 地域や保護者との連携

- ・学校内だけでなく、地域や保護者からも理解・協力が得られると教員のやる気に繋がると思う。
- ・学校での学びを校内のみで閉じずに、他校の子ども、地域の方と学び合う場があることが重要。

### 特別支援学校の取り組みの校種を越えた共有

- ・重点取組項目の中でも①、②に掲げられている部分は、これまでも特別支援教育の中で大切にしてきたもの。新しい学びというよりは、これまでやってきたことを後押ししていただいている印象。
- ・日頃から子どもがやりたいこと、願いを実現する授業づくりを心掛けているが、そういった取り組みをされている学校、先生方の事例を、校種を超えて見ていただきたい。
- ・今こそ特別支援教育の取り組みを多くの方に学んでほしいし、自分自身もまた校種を超えて良い実践から学んでいきたい。

実施団体	一般社団法人長野県私立幼稚園協会・認定こども園協会
実施日程	9月18日（水）11:30～12:00

場所	県庁
参加者	協会理事長

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 一人ひとりの良さを認め、 子どもの声を聴く

- ・子どもの権利は保障されるべきで、協会の幼稚園やこども園では、子どもが自分の良さを見つけて、興味関心に合わせて遊び込んでいく時間を保障しようという保育を目指す園が多くなった。
- ・障害を持っている子も持っていない子も、海外にルーツがある子も一人ひとりの良さを認め合うことが重要。
- ・小学校はある程度担任の先生にクラス運営は任されているが、例えば子供の声を聞く、一人ひとりの良いところを認め合うといった風通しの良いやり方ができるといい。
- ・他の人とは異なった意見でもいいから、子供の意見を聞いてもらいたい。
- ・好きなことをとことん追求して、最後に今日やって楽しかったこと、少し困ったけれど力を借りてできたことなどを発表する。

### 幼保から小学校への接続

- ・小学校への接続にあたっては一人ひとりの良さを受け止めて子供自身の声を聞くということが重要。
- ・椅子に座ってただ聞くだけの算数のやり方ではなく、特に幼保からの接続の1年生の部分は、探求の時間をとってもらえるような授業が大切。
- ・失敗しても一人ひとりその得意なところを認められる形になるといい。
- ・特に担任は1日1回は全員褒めるようにしている。（プロセスをきちんと観て褒めることが大切）
- ・好きなだけ遊ぶが、約束として人のお話はきちんと聞くということを大事にすると、1年生になってもそういう場面はとても大事に生きてくる。

### 小学校での対応

- ・先生に発想を転換していただき、教科書通りに教えるのではなく、実体験として物事のプロセスを学んでもらえれば嬉しい。
- ・第4次教育振興基本計画について、教育現場にさらに浸透させることが必要。
- ・そこに書かれた個人と社会のウェルビーイングはまさしくその通り。幸福感は人によって違うと思う。
- ・小学校の先生、特に20代の若い先生は1人で抱え込みがちになっているという話を聞く。身近にキャリアを積んだ先生もいるにもかかわらず、他の先生に聞くこと自体が「ダメな教師」と思ってしまう気持ちが強いのでは。お互いにコミュニケーションをとることが大事。

実施団体	長野県PTA連合会	場所	信濃教育会館
実施日程	9月25日（水）10:00～11:00	参加者	PTA連合会役員等、円卓会議委員、県教育長（約10名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 子ども自身が持っている力を伸ばす

- ・真っ白な紙を渡して「自由に描いていいよ」と言ったら、自由に描ける子どもが増えることが大切。
- ・いかに子ども達が自己肯定感を高め、自分の力で学ぶ力をつけていくのが重要。
- ・小学校で「何でも好きなことをする」という時間があったが、子ども先生も何をしていいかわからず困惑していた。現状子どもが自由に行動する力を伸ばすことができていない。
- ・子どもが考えた企画に親が本気で参加することや、スポーツ指導に際して子どもから練習メニューについて意見を集め、どうすればそれが実現できるかを子どもと一緒に考えながら取り組むことが重要。

### 一人ひとりに合った居場所づくり

- ・「学校に行かないといけない」という当たり前を「行かなくても何とかなる」としてもらえることは親としても嬉しい。常にみんなと一緒にいるという中では、言いたいことも言えなくなる子どももいる。
- ・多様性に合わせていくなら年齢で区分するだけでなく、一人ひとりに合わせた環境や居場所をつくるのが大事。机に座って勉強することも大事だが、子ども達が様々なスタイルで、自分でテンションを上げて学校に行けるようになれば子どもにとって安心な居場所になるのではないかな。

### 先生との情報共有を進め、一緒に子どもを支える

- ・先生の負担が多いという話をよく聞くが、その現状や保護者に求めることについて色々教えてほしい。もう少しざっくばらんに話しながら、みんなで子どもを支えていきたい。
- ・先生の社会的評価が低いと先生自身が感じているということだったが、もっと先生とのコミュニケーションを通じ、先生の評価を保護者側から高めていくようなことができると良い。

### 子どもに関わる大人も変わる

- ・大人が変わらないと子どもたちは育たない。やりたいことや学ぶ環境があっても、目指すべき素敵な大人は少ない。
- ・子どもは自分で育つ力を持っているが、親がそこに介入してしまうケースが多い。子どもが自分で育つ力は持っているのに、そこに親が制限をかけてしまう。
- ・教員を目指す学生への教育が今どようになっているのか。学生に探究心を与えるような教え方をしていないと、その後に繋がらない。
- ・教員と親がみんな同じ方向を向くことは難しいが、それを目指していくことがとても重要。

### 時代に合わせてPTA自身も変化する

- ・PTAは子どもたちや地域のありかたに合う組織であるべき。社会の変化で状況が変わるのであれば、組織のあり方について、部分的、全体的に再検討が必要。その時代に合った形が重要。
- ・教育という分野は親と先生だけの枠組みでは限界がある。地域や企業なども巻き込む必要がある。
- ・夜の会議が大変など、これまで我慢をしていたことに対して、企業の働き方改革と連携して解消を目指せると良い。PTAも保護者の働き方改革を進める企業に賞を設けるなど検討できるのではないかな。

実施団体	長野県私立中学高等学校協会	場所	ホテル信濃路
実施日程	10月3日（木）15:30～16:30	参加者	協会員、円卓会議委員（約10名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 目指すべきゴールをより明確にする

- ・メッセージに対する意見を集めてのゴールはどこにあるのか、具体的にいつまでに取り組むのか、ということが決まらなると議論が深まらないのではないかと。
- ・全体的に具体的なイメージがあまりわからない。具体的なプログラムや、授業の姿などもセットでメッセージとして発信していくと、県民の理解も進むのではないかと。

### それぞれの行っている教育の方針を尊重する

- ・私学は独自の教育方針を立てて特色ある教育を行っているため、画一的な方針を示されても難しい。
- ・私学は各々教育の理念や建学の精神があり、育てたい人物像、学校の特色が既にある。メッセージの方向性は、これからのグローバル化、少子高齢化、ICT化社会の中で必要なことなので、県としてそれを目指すのであれば私学としても今後も取り組んでいきたい。

### これまでの当たり前を見直す工夫をする

- ・今年度は授業時間を45分に見直すことで放課後の時間を多くとり、1人1人の生徒と向き合うことができるようにした。授業の中で個別最適化を進めることには限界がある。
- ・生徒1人に対する教員の数をさらに増やしていかないと、先生に精神論で頑張れといっても無理なので、国を挙げて変えていただきたい。
- ・ダブルスタンダードの解消が大事。チャイルドセンター（こどもまんなか）の実現に異論の余地はないが、進学保障の視点もある。大学も推薦入試を盛んに始めたが、それに応じて高校入試はどう変わるのか、学力・学習状況調査やPISAとどのように連動していくのが重要。
- ・私学は公立と同じ取組等の枠組みに入れていないこともあるが、目の前の子どもは同じ市民。子ども1人1人の視点に立つなら、バウチャーにして様々な教育機会を子どもや保護者が選べ、将来が保証されるならば全国的にも先駆けになれる。
- ・個別最適であることと他者との協働を大切にすることは相反する部分があるかもしれないが、このバランス感については学校体制をつくる中でビジョンを持つことが重要。
- ・多様性を尊重するのであれば、外国ルーツの子どもたちに国籍に関係なく教育を行うことが重要。

### 私学から先行例を示し、挑戦する

- ・長野県の公立学校に新しいことを取り入れようとする動きを行政が主導していることは素晴らしい。一方、教員のマインドを変えることは難しい中で、私立学校がある意義は、私立学校ならではの挑戦をすることであると感じる。
- ・本当に子供を主体的にする、本当に自由に生きるといったのはどういうことなのかということは難しく奥が深いことだが、まず大人がどう変わるかということが重要。

実施団体	一般社団法人長野県保育連盟	場所	オンライン
実施日程	10月10日（木）14:30～15:15	参加者	正副会長等、円卓会議委員（約10名）

## ■信州学び円卓会議の「メッセージ」を踏まえた取組の充実に向けて重要なこと

### 子どもの持つ力を引き出し、その可能性に「委ねる」「任せる」

- ・これまでの教育は、何も知らないゼロの状態である子どもに対して大人が教えるという、ゼロを「プラス」にする考え方があったが、子どもが持つ可能性をどう伸ばしていくかという考え方にしていくことが重要。
- ・幼児教育の世界では、子どもに委ねる、任せる、様々な行事に「参画」させるという考え方がある。何をやりたいのかという思考を子どもにどんどん任せていくと、子どもがとても生き活きて、主体的になっていく。
- ・学校でも一方的な授業をするのではなく、保育園や幼稚園で培ってきたものが小学生になっても生きる、できることがたくさんあるということを先生方に理解していただくことが重要。
- ・自分を発揮できる場所を自ら見つけられる力を持つ子どもを育てたいと考えながら保育に取り組んでいるので、このメッセージをつくっていただいたことは素晴らしい。

### 相互コミュニケーションを重視した幼保小連携の推進

- ・保育園から小学校へのアプローチカリキュラムを作り、地域の校長園長会で活動計画を共有しているが、学校の先生と話し合う機会があまりなく、活動の紹介で終わってしまう。もう少し学校の先生と話をする機会を持ちたい。
- ・幼保小連絡会はあるが、子ども個人の様子を伝えて終わってしまい、1年生に上がれば学校にお任せという形になってしまう。
- ・お互いに連携を取りながら話し合いをしていくことで、保育園の活動を知ってもらう機会にもなり、自分たちが学校の様子を知れる機会にもなる。そういった繋がりを増やしてほしい。

### 地域に開かれた保育、学びの在り方

- ・保育園では幼保小の接続のために交流会を行っているほか、中学校の職場体験や高校生の保育体験のような機会も多く持てる場所でもある。様々な人に保育園に出入りしていただいて、保育の現場から保育の面白さや子どもの可愛さを発信していきたい。
- ・保育園の多機能化についても、地域の中での保育園の役割として取り組んでいきたい。
- ・今の当たり前を否定するのではなく、それを良くしながら、地域含め様々なことを考えていかななくてはならない。特に地域や家庭と一緒にやっていくという意識を持つことが重要。

### メッセージを様々な取り組み主体に浸透させる

- ・このメッセージが実現されれば素晴らしいと思うが、実際どういう仕組みを作ればいいのかは難しいと感じている。
- ・このメッセージは全ての教育者にしっかり届いて、読んでいただきたい。
- ・「こどもまんなか」は、子どもや保護者の知らないところで保育者と教育者が考えて決めても上手くいかない。
- ・新しい取り組みをするには、しっかり保護者の理解を得て進めることが重要。